

【英語の外部検定 受検したことある？】

外検を「一般入試に利用」が50%超え！

利用する外検は「英検」に集中

旺文社 教育情報センター 2019年3月25日

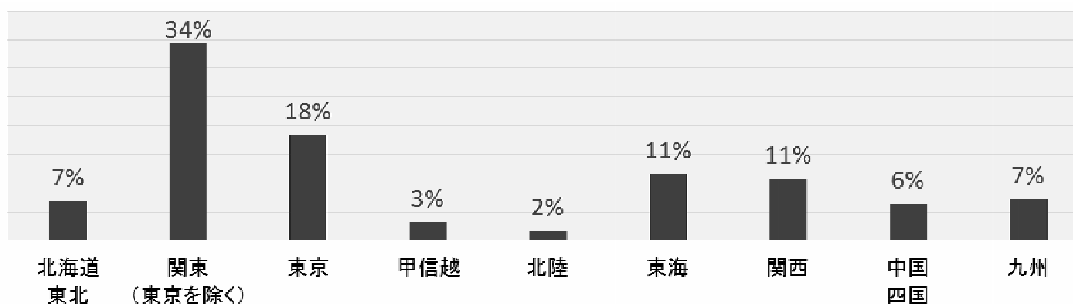
大学入試での英語外部検定試験(以下、外検)利用拡大の影響を受け、外検の注目がこれまでになりに高まっている。そこで今回のパスナビ投票では、昨年の調査に引き続き、「英語の外部検定、受検したことある？」と題し、高校生の大学入試における外検の利用動向について調査を行った。

調査概要

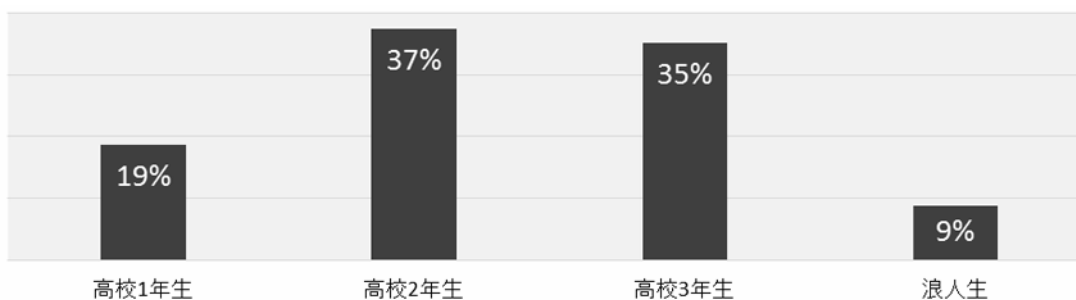
■調査期間 : 2019年1月21日～2月28日

■サンプル数 : 697 (男女比・・・男子35% / 女子65%)

■地域属性



■学年属性



一般入試、推薦・AO入試ともに「利用予定」が増加！

一般入試での利用予定は 50%超え！

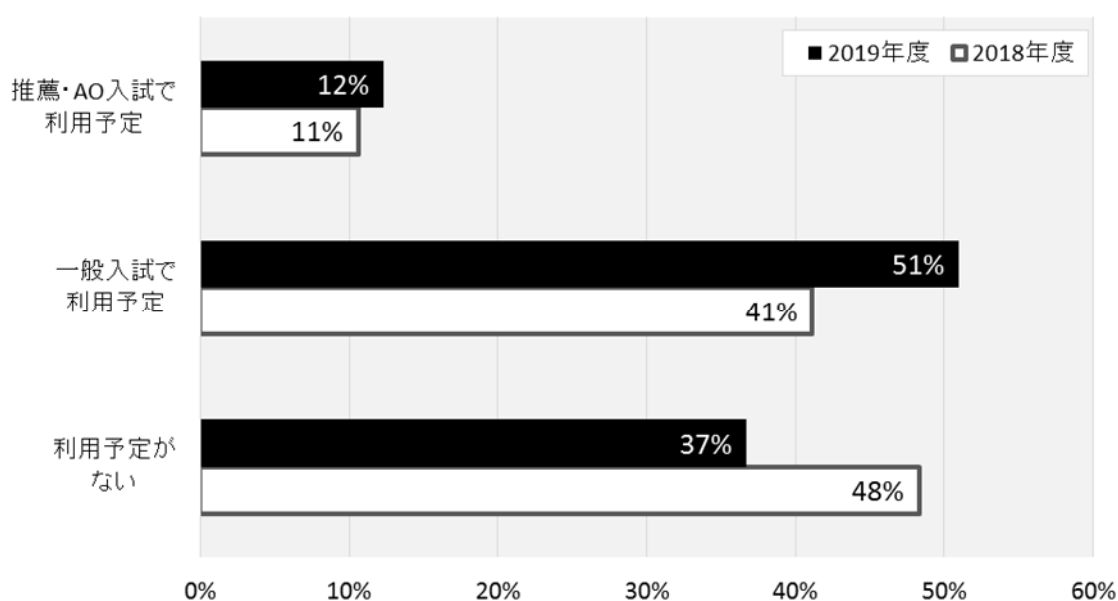
▼質問①

大学入試に英語の外検を利用しますか。

利用するのであれば、一般入試ですか、推薦・AO入試ですか。

(主に、浪人生・高3生は実際に利用したか、高2・1生は利用する予定かを質問)

▼回答結果① (回答数：667)



▼結果のまとめ

まず、質問①では、外検を大学入試に利用する受験生の割合を調査した。そのうえで、入試利用するのであれば、「一般入試で」なのか「推薦・AO入試で」なのか回答をしてもらい、その割合を前年度の調査（2018年に同時期・同内容で実施した調査）と比較をした。

結果は、外検の注目度の高さを反映するものとなった。一般入試、推薦・AO入試ともに、「利用する」「利用する予定」が前年に比べ増加。特に一般入試では、前年に比べ10ポイントもアップした。一方で、「利用しない」の割合は11ポイントも下がった。

各大学で外検が利用できる入試が増加するのにあわせて、受験生の外検の入試利用意向も上昇している。2年後に施行される共通テストで外検の利用が促進されている状況を見ると、今後もこの傾向が続きそうだ。

入試利用に使う外検は「英検」に集中！

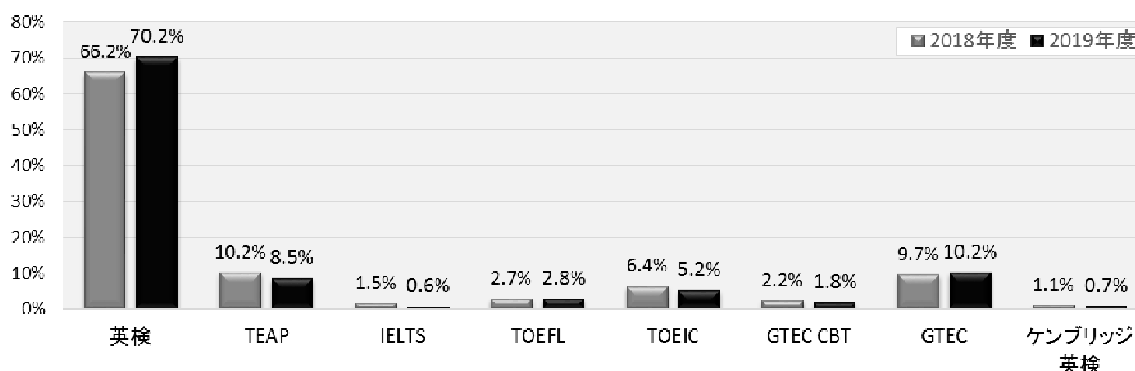
70%以上が英検と回答！

▼質問②

入試で利用しようとしている外検はどれですか。(複数回答可)

選択肢 → 英検、TEAP、IELTS、TOEFL、TOEIC、GTEC CBT、GTEC、ケンブリッジ英検

▼回答結果② (回答者数 401 / 質問①で「利用予定」と回答した数)



▼結果のまとめ

次に質問②では、外検を入試利用する高校生に対して、どの外検を利用する予定なのか調査した。回答の選択肢として用意したのは8つの認定試験。

上図をご覧いただければ分かる通り、昨年の調査に引き続き、「英検」に回答が集中した。こうした結果となった背景として、いくつかの要因が考えられるが、ここでは以下2つの要因に触れておきたい。

1つは、英検の認知度の高さ。英検は、小・中の段階において、アセスメントを目的として、個人受検だけでなく、学校または自治体単位で採用されているケースも多い。そのため、他の外検に比べ、英検の認知度は高いと言えそうだ。それに加え、そうした過去の受検体験が、心理的なアドバンテージを生んでおり、大学入試時にも英検を選択する高校生が多いと考えられる。

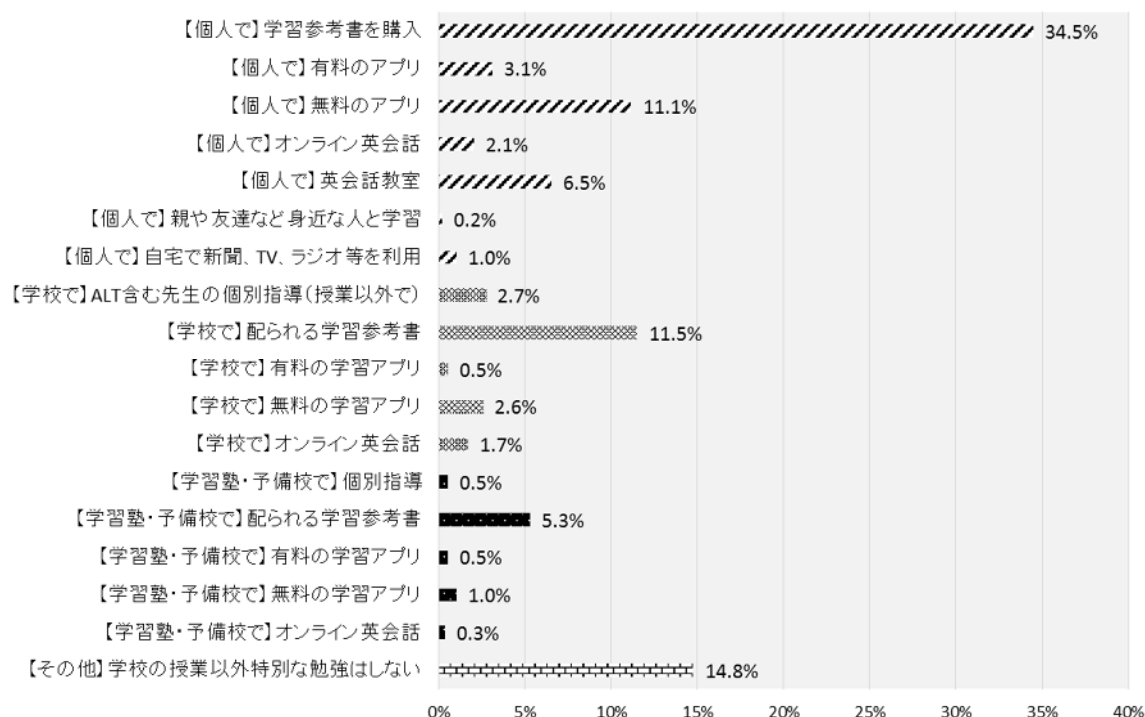
もう1つは、英検の大学入試で利用できる割合の高さだ。英検は、外検入試を行っているほとんどの大学で利用できる外検となっている。受験生としては、できるだけ多くの大学で利用できる外検を選ぶのは当然だろう。(英検の一般入試で利用できる割合の高さについての記事はこちらを参照：http://eic.obunsha.co.jp/resource/viewpoint-pdf/201902_1.pdf)

**Speaking・Writing 対策でもっとも利用されているのは「学習参考書」
意外にもアプリやオンライン英会話などはまだまだ少数という結果に**

▼質問③

「speaking（話す）」または「writing（書く）」の勉強を、
どのようにしましたか。または、していますか。（複数選択可）

▼回答結果③（回答者数 371）



▼結果のまとめ

最後に、外検の大学入試利用に伴い大きく変わる学習面について調査をした。これまでの英語の受験対策といえば、主に「Reading」と「Listening」が中心だったが、外検では「Speaking」と「Writing」の対策も重要となってくる。そこで、「Speaking」と「Writing」の勉強をどのようにしているのかを聞いた。

もっとも多く回答を集めたのは「個人で学習参考書を購入」。次いで「学校の授業以外特別な勉強はしない」、そして「学校で配られる学習参考書」となり、上位3つの回答は従来の英語の勉強法と大きく変わらない結果となった。

アンケートを実施する前の想定としては、Speaking 対策に有効と思われる「有料・無料

のアプリ」や「オンライン英会話」などに回答がもっと集まると思われたが、結果は従来型の学習参考書を利用した勉強法に回答が集中することとなった。

もう 1 つ事前の想定以上に多かった回答がある。「【学校で】先生の個別指導（授業以外で）」だ。対面式、即時性、費用負担という面から見れば、確かに学校の先生の個別指導は Speaking 対策には有効だろう。しかし、教員の負担という視点からすれば、限られた英語教員のなかで、すべての生徒に対してきめ細かな指導を行うのは困難と言える。Speaking と Writing の勉強法という質問から思わぬ学校課題も見える結果となった。